



シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2025 年度冬期概要版

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO 法人バードリサーチ

モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 2025 年度冬期調査結果の概要

全国 100 か所のサイトで実施

2025 年度冬期調査は、2025 年 12 月 1 日から 2026 年 2 月 28 日までの期間に実施されました。本ニュースレターでは 1999 年度から 2025 年度までの冬期データを用い、各サイト・各種の調査期間中の最大個体数を集計しました。2025 年度は全国 100 サイトで調査が行われ、シギ・チドリ類 40 種、計 35,698 羽が記録されました（図 1）。1999 年度以降すべての年に記録がある継続サイトは 29 サイトで、継続サイトにおける総個体数は 22,533 羽でした。

冬期の個体数は長期的に減少傾向

全サイトの最大個体数は、2000 年代後半から 2010 年代前半に高い水準でしたが、その後は減少傾向が明瞭になっています。2025 年度全サイト合計は、2024 年度（36,880 羽）より 1,182 羽少なく、約 3.2%の減少でした。継続サイトでも、1999 年度以降の変動をならすと減少傾向が続いていました。なお、2020 年度には一時的な増加がみられましたが、個体数は年変動が大きいため、長期的な傾向を評価する必要があります。

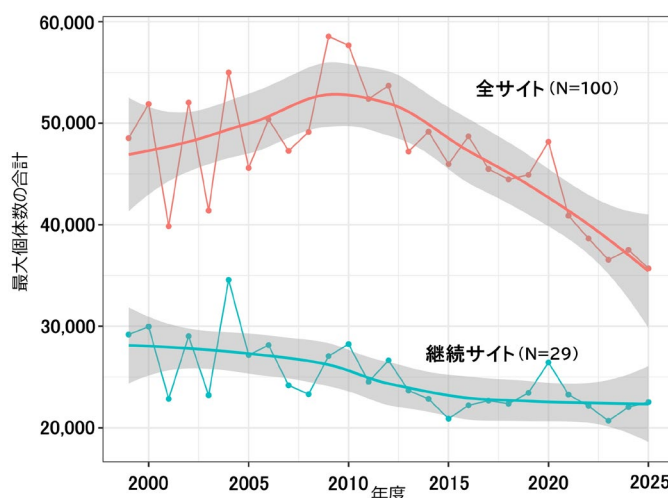


図1. 冬期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移と平滑化曲線（灰色の帯部分は 95%信頼区間）

ハマシギが総個体数の約 3 分の 2 を占める

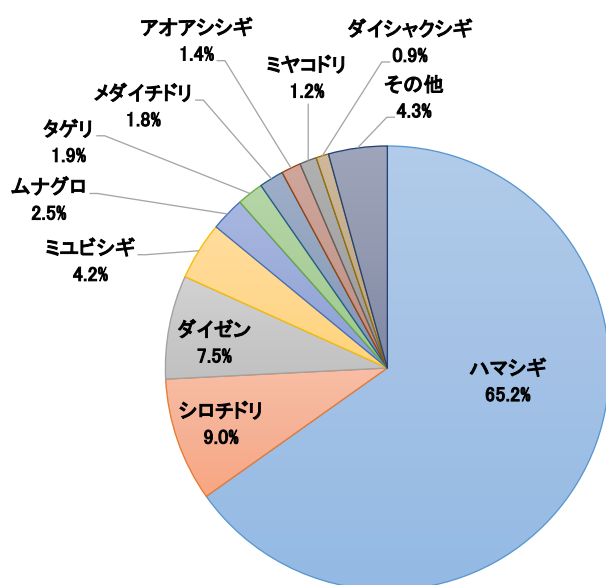


図2 2025 年度冬期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比

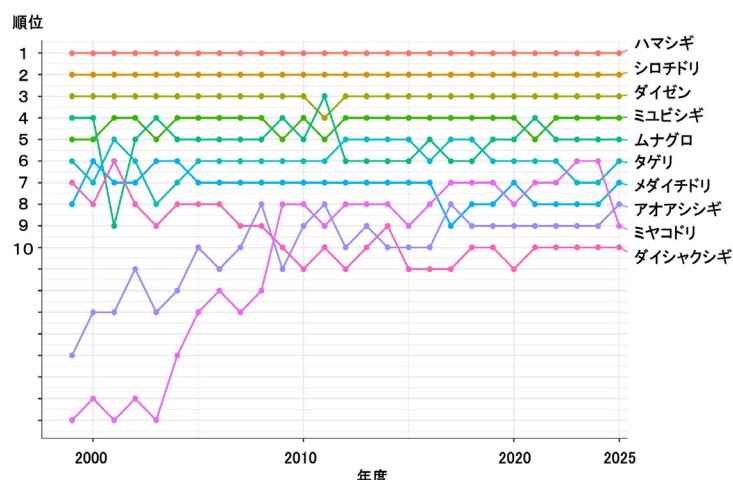


図3 2025 年度冬期調査における上位 10 種の順位変化

2025 年度の種構成では、ハマシギが 65.2%と引き続き圧倒的に多く、次いでシロチドリ 9.0%、ダイゼン 7.5%でした。上位 3 種で全体の 8 割以上を占め、冬期の総個体数は一部の優占種の増減に強く左右されます（図 2）。

順位は長期的には安定しており、ハマシギ、シロチドリ、ダイゼンは 1999 年度以降、常に上位を維持しています。一方で、ミヤコドリ、アオアシシギ、アカアシシギなど、近年順位が上昇している種もみられました（図 3）。

上位サイトでは九州と太平洋側の大規模干潟が中心

2025 年度冬期の個体数上位サイトには、大授搦、白川河口、中津干潟、泡瀬干潟、不知火干潟、氷川など九州・沖縄の干潟が多く含まれました（図 4）。また、藤前干潟、不知火干潟、谷津干潟、盤洲は、長期的に減少傾向を示しており、上位サイトの中でも増減傾向は、異なる変化を示しています。

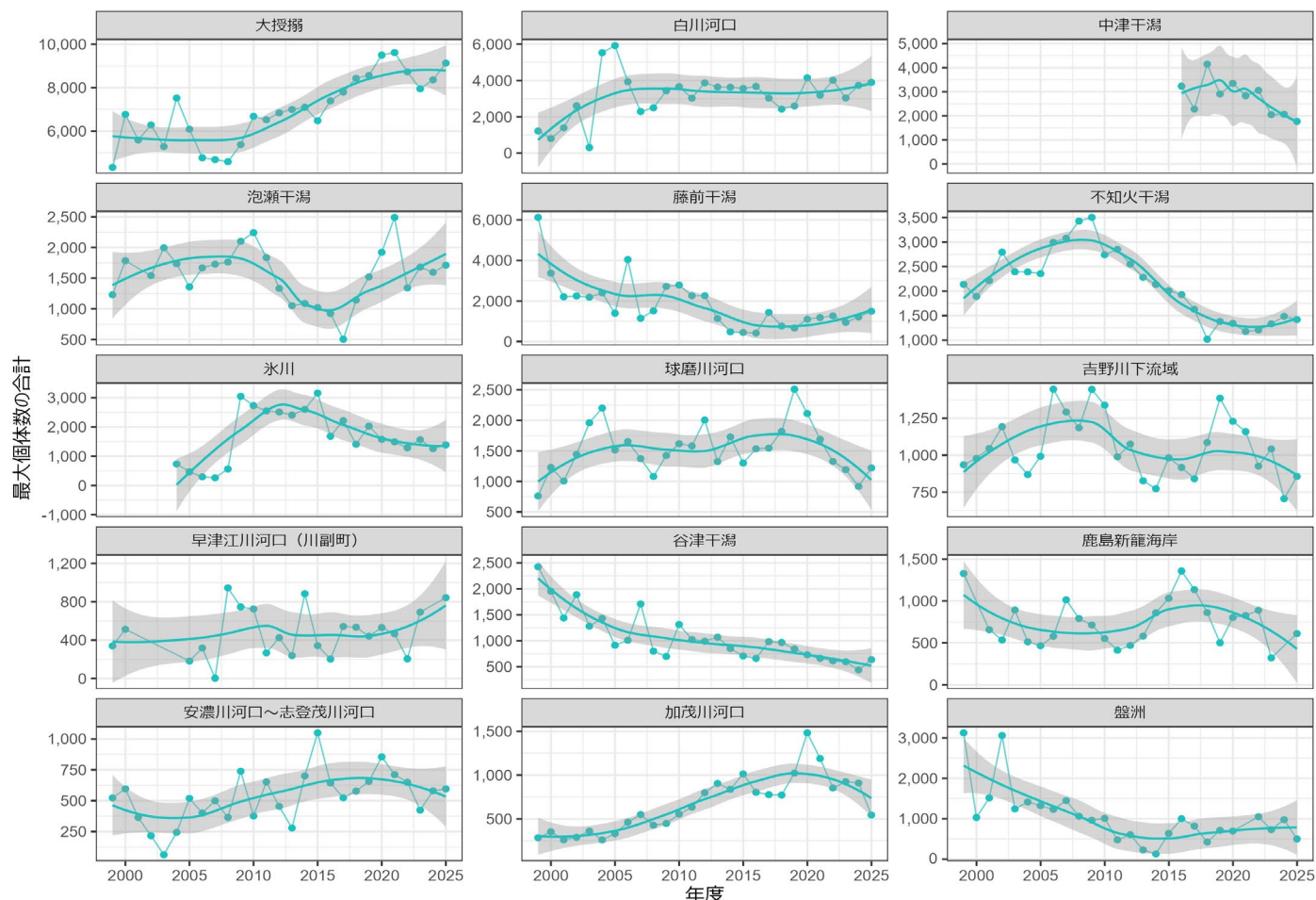


図4 2025 年度最新年個体数上位 18 サイトの推移と平滑化曲線（灰色の帯部分は 95%信頼区間）

種によって増減傾向が異なる

種別では、ハマシギ、シロチドリ、ダイゼン、ミユビシギ、タゲリ、ダイシャクシギなどが減少傾向を示す一方、アオアシシギ、アカアシシギ、ミヤコドリは増加傾向がみられました（図 5）。冬期個体群の変化には、国内越冬地だけでなく、渡り経路・繁殖地・中継地の変化に関わる可能性があり、継続的な評価が重要です。



アオアシシギ

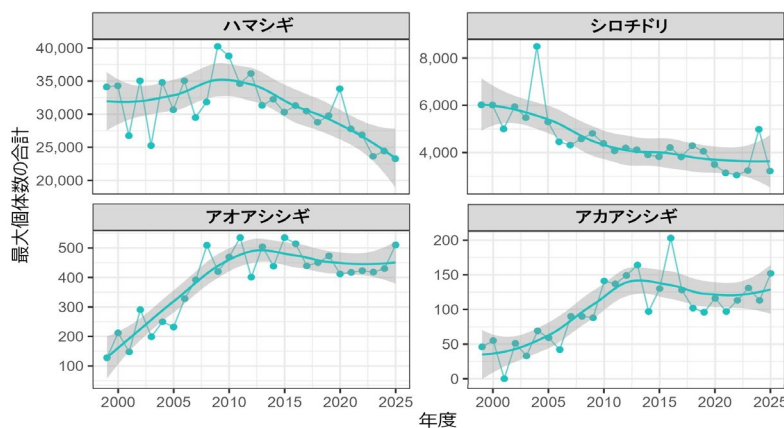


図5 2025 年度冬期の減少傾向種と増加傾向種の推移と平滑化曲線（灰色の帯部分は 95%信頼区間）

モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:ミユビシギ(守屋年史)

2025 年度 冬期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax:042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp